

クレセント®ジャンボ

■種類名：オキサジクロメホン・クロメプロップ・ベンスルフロンメチル粒剤	
■有効成分：オキサジクロメホン	1.6%
クロメプロップ	7.0%
ベンスルフロンメチル	1.5%
■PRTR法指定物質：オキサジクロメホン [第1種]	1.6%
ドデシル硫酸ナトリウム [第1種]	1.2%

■登録番号：第23269号（北興産業登録）
■毒性：普通物（毒劇物に該当しないものを指している通称）
■登録初年：2013.05.29
■性状：類白色細粒、水溶性パック入り 1パック50g
■有効年限：3年
■包装：500g×20袋

【特長】

- ノビエに対する残効性の長い有効成分オキサジクロメホンを含む一発処理除草剤。ノビエ2葉期まで使用できる。
- 有効成分クロメプロップの働きにより、SU抵抗性雑草に高い効果を示す。
- ノビエの発生を長期間抑える。
- SU抵抗性雑草（ホタルイ、アゼナ類など）にも効果を示す。

【適用内容】（2016年10月末日現在）

作物名	適用雑草名	使用時期	適用土壌	使用量	本剤の使用回数	使用方法	適用地帯
移植水稲	水田一年生雑草 及び マツバイ、ホタルイ、ウリカワ ミズガヤツリ（東北） ヘラオモダカ、ヒルムシロ、セリア オミドロ・藻類による表層はく離	移植後3日～ ノビエ2葉期 但し、 移植後30日 まで	砂壤土 ～埴土	小包装（パック） 10個（500g） /10a	1回	水田に小包装 （パック）のまま 投げ入れる。	北海道 東北

杆ガ 加林を含む農薬の総使用回数	加メロップを含む農薬の総使用回数	ベンスルフロンメチルを含む農薬の総使用回数
2回以内	2回以内	2回以内

【効果・薬害等の注意】

- 必要量を購入し、できるだけ残すことなく使いきること。
- 本剤は雑草の発生前から生育初期に有効なので、ノビエの2葉期までに時期を失しないように散布すること。なお、多年生雑草は生育段階によって効果にフレが出るので、必ず適期に散布するように注意すること。
ホタルイは2葉期まで、ウリカワ、ミズガヤツリ、ヘラオモダカは発生始期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリアは再生始期まで、アオミドロ、表層はく離は発生前が本剤の散布適期である。
- 苗の植付けが均一となるように、整地や代かきはていねいに行うこと。未熟有機物を施用した場合には特にていねいに行うこと。
- 処理に当たっては水の出入りを止めて水深5～6cmの湛水状態にし、散布後少なくとも3～4日間は通常の湛水状態を保ち、田面を露出させないようにし、散布後7日間は落水、かけ流しはしないこと。自然減水により田面の一部が露出するようになったら、水尻を止めて通常の水深になるまで水を入れて水口を閉じること。
- 本剤は小包装（パック）のまま10アール当たり10個の割合で水田に均等に投げ入れること。
- 藻や浮草が多発している水田では、拡散が不十分となり、効果の劣る可能性があるため使用を避けること。
- 散布後に多量の雨が予想される場合は除草効果が低下することがあるので使用を避けること。
- パックに使用しているフィルムは水溶性なので、ぬれた手で作業したり、降雨で破袋することのないように注意すること。
- 下記のような条件では薬害が発生する恐れがあるので使用を避けること。
 - ◆ 砂質土壌の水田及び漏水田（減水深2cm/日以上） ◆ 軟弱な苗を移植した水田 ◆ 極端な浅植の水田及び浮き苗の多い水田
- 処理後数日間著しい高温が続く場合、初期生育が抑制されることがあるが、一過性のもので次第に回復し、その後の生育に対する影響は認められない。
- 本剤はその殺草特性からいぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これら作物の生育期に隣接田で使用する場合は、十分注意すること。
- 散布田の水田水を他の作物に灌水しないこと。
- 河川、湖沼、地下水等を汚染しないよう、落水、かけ流しはしないこと。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意し、特に初めて使用する場合や異常気象時は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

【安全使用上の注意】

- ❖ 本剤は水溶性フィルムで小包装化されているため、通常の使用方法ではその該当がない。ただし濡れた手で触らないこと。
- ❖ 水溶性フィルムが破裂した場合は以下の点に注意すること。
 - ① 眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当てを受けること。
 - ② 皮膚に対して弱い刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意すること。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすこと。
 - ③ かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。
- ❖ 保管：直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。吸湿性があるので湿気には十分注意し、使い残りは外袋の口を堅く閉じて保管すること。また、強く加圧されると包装材フィルムが劣化するおそれがあるので下積みにならないようにすること。